

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	公益財団法人 群馬交響楽団
公演団体名	群馬交響楽団

内容
<p>オーケストラおよび構成する楽器、歴史や成り立ちに加え、音楽鑑賞のポイントや聴きどころなどに関するレクチャーを交えながらミニコンサート(奏者3～4名)を実演することにより、本公演に際してオーケストラ鑑賞が初めてでも、親しみを持ってコンサートを味わえるよう、理解を深められることができる内容となっております。</p> <p>①オーケストラの仕組み、代表的楽器とその役割の紹介 図解を交えながら、演奏者自らによりわかりやすくお話しいたします。</p> <p>②曲目解説 小編成だからこそその、間近での鑑賞により演奏者に親しみを持っていただきます。</p> <p>③音が出る仕組みの説明 全ての楽器は空気が振動することによって音が出る仕組みをレクチャーします。 演奏者の直接指導のもと、実際にオーケストラで使用する楽器を触ってもらう、楽器体験コーナーを設定する事も可能です。</p> <p>④オーケストラや演奏者への質問コーナー 学校からのご要望に応じて実施いたします。</p>

タイムスケジュール(標準)
<ul style="list-style-type: none">・1コマ目開始時間の1時間前学校入り(ご挨拶、準備等)・小中学校とともに2コマ実施(学校の時間割により設定時間は様々) <p>〔例〕 小学校：低学年1コマ、高学年1コマ＝合計2コマ 中学校：1～2年生1コマ、3年生1コマ</p>

派遣者数
<ul style="list-style-type: none">・演奏者＝3～4名・スタッフ＝1～2名 合計＝4～6名

学校における事前指導
<ul style="list-style-type: none">・一般的な鑑賞マナーなどの事前指導をお願いいたします。・質問コーナーをご希望の場合は事前に内容をまとめていただけますと幸いです。・ピアノを使う場合は連絡をします。場合によっては調律をお願いする場合があります。

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書

制作団体名	公益財団法人 群馬交響楽団
公演団体名	群馬交響楽団

演目
<ul style="list-style-type: none"> ・ ロッシーニ／歌劇《ウィリアム・テル》序曲 から「スイス軍の行進」 (5分) ・ シュトラウスII世／ワルツ《春の声》 作品410 (6分) ・ 大橋晃一／《草津節》の主題による楽器紹介曲 (15分) ・ 選択コーナー (共演コーナー) ※下記 a. ~d. より選択 <ul style="list-style-type: none"> a. 合奏 (吹奏楽部等による共演例) <ul style="list-style-type: none"> 〔 校歌 <ul style="list-style-type: none"> スーザ／星条旗よ永遠なれ シベリウス／交響詩《フィンランディア》 シュトラウスII世／トリッチ・トラッチ・ポルカ (吹奏楽編曲) フォーレ／《ドリー》組曲より「子守歌」「ミ・ア・ウ」「スペインの踊り」 (吹奏楽編曲) b. 合唱 (合唱部等との共演は、希望校毎に調整。ただしオーケストラ楽譜のある楽曲に限る。) c. 一緒に歌おう (下記の中から選択) <ul style="list-style-type: none"> 「となりのトトロ」から さんぽ／子どもの世界／大きな古時計／夏思い出／翼をください／ビリーブ d. 指揮者体験コーナー ・ 校歌 (5分) ・ ブラムス／ハンガリー舞曲 第5番 (3分) ・ エルガー／愛のあいさつ 作品12 (4分) ・ ビゼー／歌劇「カルメン」から <ul style="list-style-type: none"> 前奏曲、序奏、アラゴネーズ、間奏曲、アルカラの竜騎兵、ジプシーの踊り (15分)

派遣者数
合計=66名 <ul style="list-style-type: none"> ・ 出演者=60名 (指揮者・司会者含む) ・ スタッフ=5~6名

タイムスケジュール (標準)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 8時30分~10時搬入開始、セッティング等 ・ 11時00分 合わせ練習開始 (必要な場合) ・ 13時30分開演

実施校への協力依頼人員

- ・オーケストラが演奏する場所にシートを敷く場合は前日までにご準備をお願い致します。
- ・パイプ椅子を100脚程度事前に演奏会場にご準備ください。
- ・場合により終演後の楽器の搬出の補助をお願いする事があります。

演目解説

ロッシーニ／歌劇《ウィリアム・テル》序曲 から「スイス軍の行進」

ロッシーニ（1792-1868）は、イタリア・オペラの作曲家の中でも最も人気のある作曲家でした。すでに20歳でオペラ作曲家として成功し、特に1820年代から30年代前半にかけては、全ヨーロッパ中で熱狂的な人気を集め、まさにヨーロッパ・オペラ界の中心人物でした。しかし、20年にも満たない期間に40曲近いオペラを作曲したのち、わずか37歳で突然オペラの世界から引退してしまいます。美食家としても知られた彼は、以後40年間は作曲活動からも遠ざかり、悠々自適な生活を送ったといわれています。

この中世のスイスの英雄を扱った《ウィリアム・テル》は、最後に発表されたオペラです。ドイツの文豪シラーの同名の戯曲から台本が作られています。序曲は「夜明け」「嵐」「静寂」「スイス軍の行進」の4つの部分からなり、本日はトランペットのファンファーレから始まる最後の部分が演奏されますが、これはスイスに平和をもたらした国軍の行進と民衆の歓喜の様子が描かれています。ロッシーニらしく軽やかで楽しげな曲想で、最もよく親しまれているクラシック作品のひとつです。

シュトラウスⅡ世／ワルツ『春の声』 作品410

「ワルツ王」ヨハン・シュトラウス（1825-1899）は、同名の父ヨハン（1804-1849）と区別するため、シュトラウスⅡ世と呼ばれています。シュトラウス一家は19世紀後半のウィーンの舞踏会や音楽祭には欠かせない存在でした。ワルツとは、18世紀後半に大衆の間で始まった3拍子の踊りの音楽です。この作品は春の喜びにあふれたワルツで、1883年に初演されたものです。

大橋晃一／《草津節》の主題による楽器紹介曲

群馬交響楽団の本拠地である群馬県には温泉地が約100カ所あり、その中でも草津温泉は「日本三名泉」にも数えられる名湯です。草津温泉は高温であるため、お湯を冷ますために板でかき回して適温にする共同作業「湯もみ」が行われます。その「湯もみ」に合わせて歌われる民謡・作業唄が《草津節》で、1918年頃から歌われています。この《草津節》のモチーフを用いた楽器紹介曲を大橋晃一氏が作曲しました。

木管楽器、弦楽器、金管楽器、打楽器の順に、各楽器を紹介しながら進めていきます。個々の楽器の音色とセクションのアンサンブルをお聴きいただけます。また《草津節》のモチーフがワルツになったり、ジャズアレンジに変身したりしますのでお楽しみに！みなさんには手拍子で参加していただきます。

ブラームス／ハンガリー舞曲 第5番 ト短調

ブラームス（1833-1897）は、バッハやベートーヴェンと並ぶドイツを代表する作曲家です。ハンガリー出身のヴァイオリン奏者レマーニから演奏旅行中に教えてもらった音楽がきっかけとなり、2集21曲からなるハンガリー舞曲集を作っています。もともとは全曲ともピアノの連弾（1台のピアノを2人で演奏する）の曲として書かれていますが、多くの音楽家によって様々な編曲がなされている事からも人気が続きます。独特の音階とテンポの緩急に特徴がある音楽です。

エルガー／愛のあいさつ 作品12

エルガー（1857-1934）は、19世紀から20世紀初頭にかけて活躍したイギリスを代表する作曲家です。有名な行進曲《威風堂々》をはじめ、交響曲や協奏曲、オラトリオなど、多くのジャンルに大作を残しています。その一方で、この《愛のあいさつ》のような、なんとも愛らしい小品も多く残しています。この曲は、エルガーが結婚する前年の1888年に妻となるアリスとの婚約記念に贈った楽曲です。結婚した年に自ら管弦楽用に編曲しました。その後、第三者によってさまざまな楽器のために多くの編曲がなされ、今日エルガーの作品のなかでも最も親しまれている作品のひとつとなっています。

ビゼー／「カルメン」から

前奏曲、序奏、アラゴネーズ、間奏曲、アルカラの竜騎兵、ジプシーの踊り

パリ生まれの作曲家ビゼー（1838-75）は、若いころから才能に恵まれながら、オペラでの成功という望みはなかなか実現しませんでした。「カルメン」は現在でこそフランス・オペラの傑作として世界中で上演されていますが、1875年3月に初演されたときには失敗に終わりました。その3ヶ月後に彼は36才という若さで亡くなっています。このオペラが成功したのは、同じ年の10月に行われたウィーンでの上演からでした。ビゼー自身は、このオペラの成功を知らずに世を去ったのです。ビゼーの死後、このオペラの名曲を編曲した2つの組曲が作られました。本日はその中でも最も有名な部分を選びました。

〈前奏曲〉 オペラの中の有名な主題が組み合わされて出てくるこの曲は、今日でも様々な演奏会でのアンコールなどでもよく演奏される曲です。冒頭のテーマは第4幕の闘牛士の入場行進の場面に出てくる曲です。その後に表示される不吉な旋律の〈序奏〉は、「運命の主題」として主人公たちの運命を左右する劇中の重要な場面で演奏されます。

〈アラゴネーズ〉は第4幕への間奏曲。打楽器のキビキビとしたリズムに乗った合奏に続き、オーボエがいかにもスペイン的な哀愁に満ちたメロディを奏でます。その後タン布林を伴い、ピッコロ、クラリネットの舞踏的な旋律が印象的です。

第3幕への〈間奏曲〉はハーブとフルートではじまる牧歌風の穏やかな音楽で、もともとは《アルルの女》のために書かれた曲をもとにしています。

〈アルカラの竜騎兵〉は、第1幕と第2幕の間で演奏される間奏曲。第2幕で歌われる旋律を、ファゴットが哀しげに奏でます。

〈ジプシーの踊り〉は劇中主人公カルメンが仲間と一緒に踊る異国情緒豊かな踊りの音楽です。一風変わったリズムで2本のフルートがこっそり聴こえるところから始まり、だんだんとテンポが上がって、迫力満点のクライマックスを迎えます。カルメン全曲の中でも最も盛り上がる楽曲です。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

- ・ 選択 a の吹奏楽部等との共演の場合、児童生徒たちが演奏している曲を、オーケストラの管打楽器のメンバーが加わり一緒に演奏することにより、演奏側は間近でプロの音を感じ、また聴く側は学び舎の仲間である児童生徒とプロ奏者との共演に、より身近に本物の音楽を感じてもらいます。
- ・ 選択 b・c ならびに校歌の合唱での共演は、日頃録音音源やピアノ伴奏で行われている合唱を、生のオーケストラの演奏とともに歌い一体となって一つの曲を創り出すことで、その違いを体感し、オーケストラの迫力や音楽の楽しみをより身近に感じてもらいます。
- ・ 選択 d の指揮者体験は、プロのオーケストラを指揮するという日常生活においては体験できない内容に触れてもらい、実際に音楽を動かすことや非日常のことに挑戦しやり遂げること、また聴く側には音楽に表れる個性、音楽が実際に動く様子や聴くことの楽しみを体感してもらいます。
- ・ プログラム中の《草津節》の主題による楽器紹介曲では、民謡の独特なリズムを手拍子で参加、そして楽曲のクライマックスに向けて演奏とともに盛り上げていくことで、より一層オーケストラとの一体感を感じてもらいます。
- ・ アンコールではシュトラウス I 世の《ラデツキー行進曲》の手拍子で参加して、指揮者の合図で手拍子を大きくしたり小さくしたり、止めてみたりと様々なパターンで楽しみながら参加することで、演奏会場全体でオーケストラと一体となってコンサートの締めくくりを飾ってもらいます。

児童生徒とのふれあい

ワークショップでは、直接演奏者と話しをしたり指導を受けたりすることで、児童、生徒さんとの交流を図ります。本公演においては、ワークショップの際に出演した演奏者を再度登場させることにより、演奏者（オーケストラ）をより身近な存在としてコンサートを鑑賞出来るよう進めます。

また、体育館という子供達にとって慣れ親しんだ身近なスペースにおいてコンサートを鑑賞してもらうこと、ステージと客席という区切りをつけず、児童、生徒さんがオーケストラと同じフロア上の至近に座って音色に包まれることで、親近感や一体感を味わってもらいます。そして音楽の繊細さや、オーケストラならではの圧倒的な迫力などを、目と耳と肌で体感してもらいます。